



『浪花百景』の世界——読み解くための手引き

橋爪節也

『浪花百景』を描いた三人の絵師たち——国員・芳雪・芳瀧

曾田めぐみ

目録二点・第一景〜第百景

目録二点・第一景〜第百景

橋爪節也・曾田めぐみ
澤井浩一・船越幹央・俵和馬・島崎未央

『浪花百景』研究史

各館所蔵作品の異同

曾田めぐみ
曾田めぐみ

所蔵館一覧／掲載作品一覧／現在地略地図
参考文献／索引／おわりに



刊行に寄せて——はじめに(抄)

橋爪節也

江戸時代、旅情を誘う錦絵が刊行され、知識人から庶民に至る幅広い層で受容された。大坂を描いた『浪花百景』も、幕末に流行した錦絵揃物の一つである。大坂の歌川派絵師である歌川国員、南粹、芳雪、里の家芳瀧が競作し、船場の板元・石川屋和助から刊行された。

『浪花百景』の本格的な研究がなされはじめたのは近年である。大阪市立中央図書館が所蔵する、摺りや保存状態が良好な全一〇二作品(目録二点含む)を底本として、原寸大で復刻画集を刊行するのにも、『浪花百景』が、将来も美術愛好者や研究者、広く一般読者にも普及することを願うとともに、学術研究を押し進め、改めてその実像と真価を問うことにある。

本書では現時点での最新の研究・論考と、美術史的視点も加味した作品解説を付すとともに、国内の主要施設に加えて欧米を中心とする海外の美術館・博物館が所蔵する作品リストも編集した。『浪花百景』は研究途上であり、日本史や美術史のみならず、多様な立場からの今後の研究や活用が期待される。本書を基礎資料に、新知見が生まれることを願ってやまない。

原寸復刻
「浪花百景」集成
One Hundred Views of Naniwa
橋爪節也 編著
ISBN978-4-422-71020-4 C1071
定価：予価本体10,000円+税
A4判・上製、192頁

編著者
紹介

橋爪節也 (はしづめ・せつや)
大阪大学総合学術博物館教授、同大学大学院文学研究科兼任。一九五八年、大阪市生まれ。東京藝術大学美術学部芸術学卒業。同大学大学院修士課程修了後、同大学美術学部附属古美術研究所施設助手、大阪市立近代美術館(仮称)建設準備室主任学芸員を経て現職。著書「モダン道頓堀探検」「大坂イメージ」「大坂の橋ものがたり」「橋爪節也の大阪百景」(創元社)、「映画「大坂」 観光の世界」(戦後大阪のアヴァンギャルド芸術) (大阪大学出版会)、「モダン心斎橋コレクション」(国書刊行会)、「はたらく浮世絵 大日本物産図会」「大正昭和レトロクラシ」(青幻舎)、「森琴石作品集」(東方出版)、「木村兼霞堂全集」(藝華書院) ほか多数。

執筆陣

曾田めぐみ (東京国立博物館アソシエイトフェロ)
澤井浩一 (大阪歴史博物館学芸員)
船越幹央 (大阪歴史博物館学芸員)
俵和馬 (大阪歴史博物館学芸員)
島崎未央 (大阪歴史博物館学芸員)

原寸復刻 浪花百景 集成

One Hundred Views of Naniwa

橋爪節也 編著 (大阪大学教授)

最良の完本を
高精細で原寸復刻する
本邦初の大型画集

名所錦絵
全102点を
原寸掲載

2020年11月刊行予定

本書の特色

- ◆世界のコレクターを魅了してきた名作を完全収録する
永久保存版の画集
- ◆最新の研究成果を反映した論考と各種重要資料を完備
- ◆地誌的観点と美術史的観点で多角的に作品解説
- ◆最高品質を目指したデジタルスキヤニングと色調補正により、
原画の色彩を鮮やかに再現
- ◆全一〇二点(目録二点含む)の全体
図と部分拡大図のほか、関連
図版も多数収載
- ◆日本国内ならびに海外の作品
所蔵状況を二覧リスト化



内容紹介

『浪花百景』は幕末に成立した名所錦絵の代表作で、中判組物、全一〇二点(目録二点含む)からなる。歌川国貞、南粹亭芳雪、里の家芳瀧の歌川派絵師三人による合作で、大坂船場の板元、石川屋和助から刊行された。その美術的価値から展覧会でもたびたび公開され、地誌・郷土史の基本史料としても盛んに参照されている。しかしながら、作品そのものについての本格的な研究は近年緒に上りつつあり、美術作品としての評価や比較検証も、絵にこめられた意味の解説もまだこれからである。本書の目的は、まず、保存状態が最良の完本を原寸復刻し、極力実物に近づけ美麗に印刷再現した鑑賞性の高い画集とすることにある。さらに、初めての本格的な研究書として、地誌的観点と美術史的観点で多角的に作品解説をほどこし、概説から絵師の画業と特性、異なる摺りの比較研究など、各種の論考を備える。各館の作品所蔵状況を調査した一覧資料や関連図版・参考文献も付し、将来の発展的研究に資する基本文献となることを目指す。

異本・摺りの違いなど
細部を比較・検証

題材・地誌に加え、
美術史的観点からも解説



第十景 天神祭り夕景 国貞

No.10 Evening View of the Tenjin Festival by Kunikazu
Ships parade of the summer festival of Osaka Tenman-gū shrine

高精細スキヤニングで
鮮やかな色彩を再現

各館所蔵作品の異同

現在も市場での流通が確認されるところ、その所蔵先の多さなどから当時の人気商品であったと考えられている『浪花百景』は、版を重ねるごとに色摺りや輪郭線など主眼の差異が加えられた。
先行研究においては、『長瀬村市』の宮崎如松(『俵奈田山』)、『浪花百景』を見直し、その摺りの違いについて詳細を述べていき、白明のことであるが、錦絵は手作業で制作されるため、同一の版に異なる摺りが存在しない。これは、主眼が改刻された異版と、明らかに作品の印象を異にしている摺りにつづいての取り分けのことである。
なお、『浪花百景』を複製している館もあるが、本稿では大阪府立中之島図書館蔵本(甲)と、東京国立近代美術館蔵本(乙)とを比較し、明らかに作品の印象を異にしている摺りにつづいての取り分けのことである。『浪花百景』について言及しているかを判別するために、図版所蔵について(一)内J Accession Number(受入番号)を付したのを参照されたい。



図3 「天神祭り夕景」部分(大阪府立中央図書館蔵)

曾田めぐみ

現在も市場での流通が確認されるところ、その所蔵先の多さなどから当時の人気商品であったと考えられている『浪花百景』は、版を重ねるごとに色摺りや輪郭線など主眼の差異が加えられた。
先行研究においては、『長瀬村市』の宮崎如松(『俵奈田山』)、『浪花百景』を見直し、その摺りの違いについて詳細を述べていき、白明のことであるが、錦絵は手作業で制作されるため、同一の版に異なる摺りが存在しない。これは、主眼が改刻された異版と、明らかに作品の印象を異にしている摺りにつづいての取り分けのことである。
なお、『浪花百景』を複製している館もあるが、本稿では大阪府立中之島図書館蔵本(甲)と、東京国立近代美術館蔵本(乙)とを比較し、明らかに作品の印象を異にしている摺りにつづいての取り分けのことである。『浪花百景』について言及しているかを判別するために、図版所蔵について(一)内J Accession Number(受入番号)を付したのを参照されたい。

